科目名			担当教員	
精神保健福祉援助演習 A			小野　芳秀　ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CW3157	1	1	SR (講義)	2 年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※社会福祉学科で精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者のみが受講できる科目です。
※年 1 回のみの開講となりますので、日程調整にご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

関連科目との関連性を踏まえ、精神保健福祉援助の基礎的知識と技術の習得を図ることを目的とします。
精神保健福祉援助に係る知識と技術、地域福祉の基盤整備と開発について、事例を通して実践的に習得します。

■到達目標

１ ）自分の特性を把握できる。
２ ）支援者としての自分への気づきを得ることができる。
３ ）関わりの基本的姿勢が説明できる。
４ ）面接における基本的な原則を意識しながら、面接を進めることができる。
５ ）伝達技術における様々な方法について理解して説明できる。
６ ）情報の収集におけるアセスメントができる。
７ ）ジェノグラム、エコマップが書ける。
８ ）客観的な記録が書ける。
９ ）グループワークを通して、グループダイナミクスを理解し、活用できる。
10）地域住民に対するアウトリーチとニーズの把握方法を説明できる。
11）地域アセスメント並びに地域福祉計画の策定について説明できる。
12）ネットワーキングの方法や必要性について説明できる。
13）必要な社会資源の活用・調整・開発について説明できる。
14）サービスの評価について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目の評価基準・単位の認定方法

演習内容（80%）+ 演習レポート（20%）。グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保演習Ｂ・C」と共通）
精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉士養成セミナー7 精神保健福祉援助演習［基礎］

［専門］〈第６版〉』へるす出版、2017 年（改訂新版でも可）

（最近の教科書変更時期）2017 年４月

（スクーリング時の教科書）資料配付・提示のほかに、上記教科書を使用する場合があります。

【参考図書】

１ ）一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新 精神保健福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（精神専門）』中央法規出版、2021 年

２ ）福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ ７ ソーシャルワーク演習（精神専門）』弘文堂、2022 年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- この科目は、スクーリングの受講が必須となります（仙台でのみ開講）。
- 1 クラス 20 人以内の少人数で開講します。
- 受講料は 10,000 円となります。
- 受講許可証（メール）・納入依頼書は、各受講判定日以降に発送します。
- スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- 申込方法は、学生専用『ポータルサイト』または『With』でご案内します。
- クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- 申込締切後の受講日程の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- 公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席は認められません。
- 「精保演習 A」または「実習選考試験」が不合格となった場合、当該年度の「精神保健福祉援助実習 A」の申込みは無効となります。

■スクーリング受講条件

【実習受講者・実習免除者共通】「精保演習Ａ」スクーリング

※最新の受講条件は、申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』でご確認ください。

①受講 1 カ月前の指定期日までに達成

- 「精神保健福祉援助演習Ａ」1 単位めレポートの提出
- 卒業要件 20 単位以上の修得（入学時の認定単位を含む）

②受講 1 カ月後の指定期日までに達成

- 「精神保健福祉援助演習Ａ」2 単位めレポートの提出

■スクーリング受講・単位認定について

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイなどを予定しているため、積極的な参加が求められます。

また、実習の受講を希望する方は、実習前年度に実施される「精神保健福祉援助実習 A（福祉施設実習※）選考試験」によって次年度実習受講の可否の判定を受けてください。

※福祉施設実習：障害福祉サービス事業を行う施設などにおける実習

●単位認定

レポート＋「精保演習 A」スクーリング評価などから総合的に単位認定いたします（前項「■科目評価基準」参照）。

2 単位めレポートを所定の期日までに提出しない場合は、スクーリングの受講は無効となります。

また、2 単位めレポートが再提出の場合は、再提出となったレポート到着後、指示された期日までに再提出を行わないとスクーリングの受講は無効になります。

この科目の最終スクーリング結果通知は、2 単位めレポートの提出締め切り後に郵送またはメールで行います。

スクーリングを欠席・不合格の場合、合格済みの 1 単位めレポートは無効となります。次回以降の「精保演習 A」を申込む際は、所定の期日までに再度「精保演習 A」の課題 1 レポートの提出を行ってください。

■実習選考試験・補講演習について

・実習選考試験→『学習の手引き』3 章「実習選考試験（実習受講者のみ対象）」参照

・補講演習→『学習の手引き』3 章「補講演習」参照

「精保演習 A」受講申込者で実習免除者以外は、「精神保健福祉援助実習 A」を申込むことが前提となります。「精保演習 A」または「実習選考試験」が不合格となった場合、当年度の「精神保健福祉援助実習 A」の申込みは無効となります。

■スクーリングで学んでほしいこと

相談援助技術の基本的な知識、また、ロールプレイなどの技術の実践を行う中で、基本的な対人援助技術を習得してほしい。

援助者としての自身の適性や今後取り組むべき課題への気づきを意識して学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神保健福祉領域における援助の基礎的知識と技術	オリエンテーションおよび精神保健福祉領域における相談援助の基本、専門職としての価値観
2	基本的なコミュニケーション技術	基本的なコミュニケーション技術と面接技術
3	基本的相談援助技術	相談援助技術の概念と範囲、情報の収集・整理・伝達、課題の発見と分析、記録技術、ジェノグラムとエコマップの活用方法
4	グループダイナミクス活用技術	グループダイナミクス活用技術とその効果、グループワークの活用方法
5	個別援助技術	ロールプレイによる面接技術ならびに個別援助技術の基本と事例検討
6	集団援助技術	集団援助技術の基本と事例検討
7	地域援助技術	地域援助技術の基本と事例検討
8	自己覚知	自己覚知の必要性と他者理解

※演習において「小テスト」「ガイダンス」、必要に応じて面接などを実施する。

※担当教員により上記各コマの内容および流れが異なる場合がある。

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、必要に応じて板書やＩＣＴの活用、資料配付などを行う。

■スクーリング　評価基準

演習内容（80%）＋演習レポート（20%）

※グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

①次項「■在宅学習 15 のポイント」から予習しておくこと（前項「■講義内容」の各テーマに対応する「■在宅学習 15 のポイント」は次表を参照）。

テーマ	「在宅学習 15 のポイント」（回）	テーマ	「在宅学習 15 のポイント」（回）
１）	１・３	５）	13
２）	７	６）	13
３）	４・６・８・10・12	７）	13
４）	９	８）	２

②「精神保健福祉援助演習Ａ」１単位めレポートを作成し、期日までに提出していること。

③所定の期日までにスクーリング受講条件に定める科目の学習を終えていること。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

①「■在宅学習 15 のポイント」の 15 回を参照し、演習内容を振り返りながら援助者としての自己の適性について振り返りを行う。

②「精神保健福祉援助演習Ａ」２単位めレポートを作成し、期日までに提出すること。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
１	精神保健福祉士についての理解 （基礎編　序章）	ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の意義について理解する。 キーワード：社会的入院、生活支援の視点、倫理綱領	「Y 問題」とはどのような事件だったのか、他の文献などから調べ、そのことの反省から精神保健福祉士のあり方としてどのようなことが提起されたのか調べる。
２	自己覚知について （基礎編　第１章Ⅱ）	ソーシャルワークにおける自己覚知の意味について理解する。 キーワード：自己覚知、スーパービジョン、ジェノグラム、エコマップ	ソーシャルワークにおける自己覚知の定義と必要性について調べる。
３	専門職の価値と倫理 （基礎編　第２章Ⅰ）	個人の価値観と専門職である精神保健福祉士としての価値観の違いについて理解する。 キーワード：クライエントの自己決定、権利擁護	「なぜ精神保健福祉士になりたいのか」、自身がどのような価値観や人生観を持っているのか再確認しながら整理する。

4	支援（相談援助）の対象について (基礎編　第２章Ⅱ)	精神保健福祉領域における相談援助の対象、精神保健福祉士としての相談援助の範囲について理解する。 キーワード：ミクロレベル、メゾレベル、マクロレベル	精神保健福祉士は誰を援助の対象とするのか、相談援助の範囲にはどのようなレベルがあるのか整理する。
5	精神障害者の理解 (基礎編　第２章Ⅲ)	精神障害者を疾病と障害を併せ持つ生活者として捉える視点について理解する。 キーワード：ストレングス、ソーシャルアクション	精神保健福祉士は支援の対象となる精神障害者をどのような「存在」として理解すれば良いのか、専門的視点について整理する。
6	援助関係のあり方 (基礎編　第２章Ⅳ)	専門的な援助関係、援助関係の結び方など、援助関係の原則について理解する。 キーワード：バイステックの７原則	ケースワーク（直接援助技術）における専門的な援助関係の行動原理について示した、バイステックの７原則について整理する。
7	コミュニケーションの基本 (基礎編　第３章Ⅰ)	言語・非言語コミュニケーションについて理解する。 キーワード：言語・非言語コミュニケーション、『自覚しない逆転移』	言語・非言語的コミュニケーションとは具体的にどのようなものか理解したうえで、家族や友人から「ある日の出来事」について話してもらい、その時の話し手の感情や状況を自分なりにイメージしてみる。
8	基本的面接技術 (基礎編　第３章Ⅱ)	基本的面接技術について理解する。 キーワード：構造化面接、半構造化面接、非構造化面接	教科書「ニーズの表出の特徴」について整理する。
9	グループワークの活用 (基礎編　第３章Ⅲ)	グループ援助の可能性と留意点について理解する。 キーワード：ヤーロム、ディーガン	集団精神療法の領域においてヤーロムがあげたグループのもつ有効性の 11 の因子、ディーガンのあげたリカバリー要因としての「2、3 歩先を行く当事者」の存在の有効性についてそれぞれまとめる。
10	情報の収集・整理・伝達 (基礎編　第３章Ⅳ)	情報収集の目的と原則および方法について理解する。 キーワード：アセスメントシート、ジェノグラム、エコマップ	教科書の「情報収集の目的」を理解した上で、「情報収集の原則と方法」について整理する。
11	課題の発見と分析（支援の見立て）について (基礎編　第３章Ⅴ)	課題の発見に必要なプランの作成能力・洞察力・的確な情報提供力ならびに情報収集・整理能力について理解する。 キーワード：仮説、専門用語・日常用語	教科書の尾崎新の援助において理解しなければならない５領域について具体的にイメージしながら、精神保健福祉士の誠実な態度と傾聴の姿勢、理解者でありたいと願い続ける謙虚な態度形成とは何か整理してみる。

12	記録について (基礎編　第３章Ⅵ)	記録の意義と具体的方法について理解する。 キーワード:ケース記録、記録の保管、秘密保持	どのような記録がどのような目的で必要なのか、記録の種類と使用目的、記録事項、記述方法について教科書をよく読み整理する。
13	基本的援助方法の理解 (基礎編　第４章Ⅰ・Ⅱ)	個別援助技術（ケースワーク）・集団援助技術（グループワーク）・地域援助技術（コミュニティワーク）・ケアマネジメントについて理解する。 キーワード:ストレングスの視点、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメント	個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ケアマネジメントの過程と原則について整理する。
14	ソーシャルワークの共通基盤 (基礎編　第４章Ⅲ)	ソーシャルワークの援助方法の共通基盤について理解する。 キーワード:自己決定の尊重、「成長と変化のプロセス」	ソーシャルワークの全体像、共通基盤について整理する。
15	自己理解を深める (基礎編　付章Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ)	1～14 の学びを通して得られた知見と要点を整理し、再び自身の価値観を見つめ直し、精神保健福祉士の意義と専門性について理解する。 キーワード:「かかわり」「寄り添う」「協働の関係」「権威性」「自己覚知」「人と状況の全体性」	各キーワードの意味について、教科書の内容を吟味し理解を深める。演習スクーリング受講後は、グループワークなどの演習内容を振り返りながら、援助者としての自己の適性や精神保健福祉士の価値について理解を深化させる。

■レポート課題

１単位め	**※スクーリング事前レポート（所定の期日までに提出）** 精神保健福祉士として、利用者とのコミュニケーションにおいて大切と考えられることをまとめてください。
２単位め	**※スクーリング事後レポート（スクーリング受講後の所定の期日までに提出）** 精神障害の「障害」とは何かについて述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

自身の経験知だけでなく、教科書や参考資料をよく読んだ上でレポート作成に取り組んでください。ただし、教科書や参考図書の丸写しは不可とします。

【1 単位めアドバイス】

教科書の［基礎編］２章・３章・４章をよく読んでまとめてください。

教科書［基礎編］の２章「Ⅰ 精神保健福祉士としての価値と倫理」の「1 自己決定の尊重」「2 権利擁護」、「Ⅲ 精神障害者の理解のあり方」、「Ⅳ 援助関係の形成」、３章「Ⅰ 基本的なコミュニケーション」、４章「Ⅱ レパート

リーとしての基本的援助方法」の“バイステックの７つの原則”、「Ⅲ ソーシャルワークの援助方法の共通基盤」の“人と状況（環境）の全体性”“自己決定の尊重”などの内容をよく理解した上で自身の考えを論じてください。

【2 単位めアドバイス】

スクーリングでは、具体的なかかわり技法や事例の検討を通し、人と人とのかかわりのなかで、自分を見つめる機会にもなります。さまざまなことをたくさん吸収してください。そのうえで出された課題について論じてください。

■レポートの提出方法 ――

１） 1 課題につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。

２） 1 単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長 4,000 字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右 40 字×30 行×2～4 枚まで可。

３）教員名の欄は記入しないでください。

４）各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』参照）。